

# 飛翔

Hamamatsu  
Enoshima  
High school

Vol.84

The month of issue 2021.12

# News



2021.7.19 輝潮祭

#えの高  
フォトグラフ



2021.10.29 体育大会



## 御挨拶

PTA副会長 瀧下昌明

はじめましてPTA副会長の瀧下昌明と申します。至らない点があるかと思いますが、よろしく願いいたします。保護者の皆様におかれましては、常日頃よりPTAの御支援・御協力を賜り、ありがとうございます。

コロナ禍で沈んだ人々の心を掴んだ今年の夏の「東京2020」。“おもてなし”はできませんでしたが、無事終了したことは、日本の底力を世界へアピールできたと思います。更に、日本人選手の活躍には目を見張るものがありました。私が着目したのは、殆どの選手が「周りのサポートが無ければ、今の自分は無い」と言っていたことです。確かに10代のアスリートは家族のサポート無しでは何も

始まりません。もっと言えばオリンピックそのものが、ボランティアのサポートが無ければ在り得なかったと思います。改めてサポートの大切さを感じました。これは、親子および先生と生徒の関係も同じだと思います。これからの素晴らしい将来に向けて「飛翔」していく江之島アスリート達を、保護者の皆様や先生方のお力をお借りし、チーム一丸となってサポートしていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

本年度も残り3か月となりました。特に3年生には、残り僅かな高校生活を充実したものにしたいと願っております。

## 生徒が眩しい浜松江之島高校

副校長 鈴木雅道

「制限」と「延期」、「生命」と「人権」という言葉が校内を席卷した今年度、新たな常識のもと学校生活が始まり、変化に翻弄されながらも別の日常が定着しつつある本校では、不変の活動、生徒達の学びと成長の保障、リアリティのある進路実現を目指し、現在も大なり小なり形を変えながら歩んでいます。それは周りの人への配慮と安心できる環境作りにより、共存の意識を持ちながら、個人の力を最大限に発揮する場の提供に他なりません。

緊急事態宣言中、万全の感染症予防対策と工夫された運営管理体制の下、各部活動の大会が実施され、弦楽部の第45回全国高等学校総合文化祭出場、吹奏楽部の第27回日本管楽合奏コンテスト全国大会出場、美術部の県大会出品など、1学期の男子バスケットボール部、陸上競技部、合唱部に続く活躍が見られ、学校に明るさと活力をもたらしてくれました。

そして、10月に延期した体育大会、生徒達の満面の笑みと全力で競技する力強い姿を目の当たりにして、久しぶりに心揺さぶられました。感無量とはこのことだと実感しました。個人力だけでは実現できない、学校として一つの完成形、

言い換えれば、相互に力を合わせ、周りの人を気遣うことで、またそれが個人の力となっていくことが証明された一日でした。学校の不変の目的は、生徒達の笑顔と全力を出し切る場を保障することだと確信しました。

学習面では、基礎学力の定着を目指した朝の短時間学習「チャレンジスタディ」の定着度確認テストが80%を超える合格率を超え、3年生の四年制大学進学希望者のほぼ全員が各種模擬試験を自主的に受験するなど、自分の力を試す機会を求めて前進しています。そうした雰囲気は3年生の就職希望者の内定率の高さにも現れていて、基礎学力の定着とコミュニケーション能力が評価されたのだと嬉しく思っています。

生徒一人一人が自力をつけ、チームや学校としての総合力底上げに邁進した結果、たわわに実った果実となって生徒達に返って始めています。生徒達はその果実を満面の笑みで味わう姿を、地域、保護者、職員で見守っていただければ幸いです。

## 「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール 文部科学大臣賞受賞

昨年度末から本年度にかけて、本校では「命の大切さを学ぶ教室」として、スマートフォンで「ポケモンGO」をしながら運転していた運転手のトラックに次男が撥ねられて死亡した則竹崇智(たかとし)さんの講話や、交通事故の犠牲者一人ひとりの等身大の人型と遺品の「靴」と共に家族の綴ったメッセージを展示する「生命のメッセージ展」を実施してきました。

警察庁主催の「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール(全国からの応募数1万343点)において、2年石垣奏美さんが書いた感想文が文部科学大臣賞受賞に選ばれ、12月1日に東京都日本橋公会堂にて表彰式が行われました。作品集や警察のホームページにも作品が掲載されました。



### 「かけがえのないもの」

「どうか生きてください。」  
暖かな陽が差し込む午後3時、震えながらも力強い声が静寂に包まれた学校中に響いた。

この言葉は、命の大切さを学ぶ教室で講話をしてくださった則竹崇智さんの一言だ。彼は交通事故によって息子の敬太さんを失った。ながら運転をしていたトラックの運転手の不注意で起きた事故だった。たった9歳にして天使になった敬太さんは、どれだけ痛かったのだろう。生きたいと願ったのだろう。そして親族はどれだけ苦しんだのだろう。それら全てを講師の則竹崇智さんが教えてくださった。

平成28年10月26日、集団下校の途中、信号のない横断歩道で敬太さんはトラックに撥ねられた。崇智さんは仕事で中だった。敬太さんが事故に遭った事を知り、同居の母へ電話した。携帯の向こうでは救急車の音がした。則竹さん一家が揃うと、「救急車の中で心臓が止まったみたい。」と母が言った。崇智さんができることは、「先生が何とかしてくれる。大丈夫。」というだけだった。1時間後、処置室で目の当たりにしたのは、ドクターが馬乗りになって心臓マッサージしている光景。それを見て崇智さんは膝から崩れ落ちた。長男はずっと黙ったまま奥歯を噛みしめて座っていた。敬太さんの左手を奥さん、右手を崇智さん、両足を祖父が触ると、まだ温かく心臓は動き血圧もあった。「敬太君、よく頑張ったね。」「痛かったな。」「大丈夫だから。」家族の想いは届かないまま、事故から2時間後、敬太さんは彼が生まれた場所で天国へ旅立った。

この話を聞いた後、敬太さんや親族の方々の気持ちを考えると私の目からは涙が止まらなかった。そして、かけがえのない息子を失い心に深い傷を負ったはずなのに経験したことを話してくださった崇智さんが、私達に何を伝えたかったのかを考えると、流れた涙を

25HR 石垣奏美

止めるのに時間がかかった。  
自転車を運転している私達は、加害者にもなり得る。携帯を常に手に持っていないと落ち着かなかつたり、通知が来て少しならいいかとメッセージを返したりしている人をたくさん見る。私も登下校中に携帯が手放せず、すぐに触れるようにポケットに入れていた。しかし、崇智さんの講話を受け、少しづつと携帯に気が取られている内に、自分の身に誰かの身に危険が迫っているということに気づいた。私は怖くなり、携帯は常にカバンにしまうようにした。私の友達も登下校中は一切携帯を触らなくなった。更に、浜松江之島の生徒全体としても危険な運転をする人は減ったように感じる。崇智さんの想いが多くの人に伝わった証だ。私は自分の事のように嬉しく思った。

私達は大人に頼り生活している未成年者だが、社会の一員でもある。今回の講話のながら運転だけでなく、いじめ・体罰・虐待・育児放棄・殺人・災害など、目を逸らしてはいけない出来事がたくさんある。どれも簡単に命を奪ってしまう。いつ、何が起こるか分からない。だからこそ当たり前過ぎてしまっている日々を大切にしたい。崇智さんの想いが多くの人に伝わった証だ。私は自分の事のように嬉しく思った。

今回のような講話は現代の子供達にとっても得るものは多く、必要不可欠な経験だと思ふ。講話を受けることで様々なことを感じ、感謝の気持ちを忘れない人が増えてほしい。かけがえのないものを失わないように。奪ってしまぬように。

## 教務課

### 『これから必要とされる能力について』

学習指導要領の改訂に伴い、来年度の1年生からカリキュラムや学習評価の方法が一部（または大幅に）変更されます。改訂の主旨は、変化の予測がつかない現代社会に対応していくために必要な（知識・技能・思考力・判断力・表現力・学びに向かう力など）を効果的に身に付けさせた上で、それらを実社会で活用できる能力を育むための教育改革です。

生徒には、自分の学習状況（どの部分の学習が不足しているか等）を把握しながら計画的に学習を進めていくことができる主体性や、他者と協力しながら問題を解決していくことができる協調性などが求められます。

カリキュラムの変更など、制度的な変化は現在在校生には直接関係ありませんが、これから社会に出ていくことになる生徒にとって、上記の能力が必要になることには変わりはありません。相変わらずコロナ禍の影響があり、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の実践が難しい状況ではありますが、生徒の皆さんには、現代社会を逞しく生きていくための学習の必要性について、しっかりとした自覚をもって学校生活を送ってほしいと思います。

## 生徒課

### 『ネットトラブル被害から子供を守る』

コロナ禍で自宅時間が増え、生徒たちの中でスマホを触る時間が増えたという話を耳にするようになりました。本来なら友達と買い物に行ったり、どこかへ出かけたりして過ごしていた休日、心も体もどのようにに発散すればリフレッシュにつながるのでしょうか？

それでも確実に言えるのは携帯に頼るということではないということです。様々なネットトラブルから子供たちを守るために私たち大人ができることは何なのか。スマホの使用時間制限・アプリ、SNSの把握等は絶対的に必要なものだと思います。

「家庭でのルール」(使用時間)「ペアレンタルコントロール」(モニタリング、有害サイト制限、やりすぎ見すぎ制限、アプリ制限)「フィルタリング」等、全て大人が対応できるものです。自撮り被害や、いきなり高額請求などが起きないように対処していくことが必要です。是非ご家庭で話し合ってみてください。

先日行われた体育大会では3年生を中心にすばらしい姿を見せてくれました。生徒の成長に胸が熱くなり、たくさんの感動をもらうとともに改めて良い学校になったと感じました。そんな浜松江之島高校の雰囲気を楽しもうと先にもっと先にある江之島高校の可能性に向かって努力してほしいと思います。

## 進路課

### 『社会を生き抜く資質・能力とは』

国立青少年教育振興機構がアンケート調査した結果をもとに示した『社会を生き抜く資質・能力』とは、「意欲」・「コミュニケーション力」・「自己肯定感」・「へこたれない力」の4つです。このうち、特に「へこたれない力」について取り上げます。

近年、失敗を恐れて挑戦をしなかったり、打たれ弱い若者の増加が懸念されています。実際に高校生と接していても、(素直で真面目な生徒は増えていますが)意志の強さや持久力などの面において、少々物足りなさを感じています。例えば、3月に実施される国公立大学の中・後期試験の受験者数は減少傾向が続くなど、全国的にも苦しい状況の中、最後まで目標に向かって粘り抜ける高校生は年々減少しているようです。

しかし、社会には「すぐには答えの出ない」事態があふれています。その事態に耐え、その中でも自分の進むべき方向性を見失わない力が社会では求められるのです。そして、就職・進学に関わらず、納得がいく進路活動ができた卒業生は多かれ少なかれ「すぐには答えが出ない」事態に「へこたれない」で努力をしてきました。必死で取り組む人間には、必ずそれを理解し、支えてくれる人が現れます。これから進路活動が本格化する1・2年生には、まずは目の前の事に対して「へこたれない」で向き合う姿勢を身に付けてほしいと考えています。

## 1年部

### 『ジョブウォッチングへの取り組み』

11月12日(金)の秋晴れの午後、1年生はクラス1社ずつ企業を訪問させていただきました。これまで2週にわたり訪問先の企業について、パンフレットやホームページなどから基本データを調べてきましたが、データには掲載されていないことを当日質問したグループは多かったと思います。例えば、「会社としてどういう人材が欲しいのか。」「今、高校生に求めること。」、等々。

会社の方からは、会社の経営理念や社訓、働きがい、会社の目標、社会貢献をしているという意識、仕事上の工夫、働くプライド、働く環境、会社の雰囲気(従業員の雰囲気)などなどを聞かせていただきました。実際見学し、直接担当の方に聞くことによって得られる情報こそ生徒たちにとっては「生きた情報」です。クラスでまとめた事柄を発表し合い、企業理解とともに「生きた情報」を交換し合いました。これらは、2年後の就職活動の一環で会社見学をさせていたばかりの大切な判断材料になることは間違いありません。また、会社では、学校で言う基本的な生活習慣とルールの遵守が厳しく問われていることも教えていただきました。

これからの高校生活の中で、これらのことが身につくよう意識して生活をすると共に「自分を活かせる仕事」を見つけるべく、自分を鍛えていってほしいと切に願います。



## 2年部

### 『2年生の皆さんへ』

皆さんはいよいよ3年生になります。高校最後の1年間が始まります。そして、高校卒業後にどこに、どう行くのか、決める時です。なかなか大切な時を迎えます。それは皆さんだけではなく、皆さんの家族にとっても大きな節目になります。ですから、ちゃんと情報を集め、調べて、実際に見に行き、色々な人に相談もして、最後は自分でしっかり考えて決めましょう。

自分についてよく顧みて、自分の得意なことや好きなことは何かを見出し、それが生かせる場所を目指しましょう。いきなりピンポイントでそのような場所が見つかるわけではないでしょうが、その場所につながると思われるところは必ずあると思います。

そして、しっかりと準備をしましょう。学科の勉強が必要かもしれない。友達とおしゃべりするのとは違う話し方を身につけなければならぬかもしれない。でも、皆がこれまでにその体内に蓄えてきたものをもとにすれば、何とかなります。高校の授業は当たり前に行われます。それにプラスして自分の将来のための準備を進めるのです。これくらいいいや、などと思わないで、チャレンジしましょう。

チャレンジしているのはあなただけではなく、隣の子どもややはりチャレンジしているはず。互いに応援しあって、それぞれの目標を捉えに行きましょう。



## 3年部

### 『続 自律・自主・自立』

10月29日・高校生活最後の体育大会。11月12日・高校生活最後の遠足。少しずつ、高校生活の最後という言葉が、現実味を帯び始めました。学校行事だけでなく、何気ない日常の一つ一つが「高校生活の最後の1シーン」になりえることに、気づいてほしいと思います。その一瞬がかけがえのないものなのです。卒業後、学校に帰ってくる先輩たちのほとんどが、「高校生に戻りたい」「高校生活が1番楽しかった」と口にします。しかし、その先輩たちも当時は、そのことには気づかず生活していたのです。私の好きな歌の中に、「無くして 気づくもの 無くさずに 気づかないもの」「それでも一人きりじゃ探せない大切なもの」という歌詞があります。高校という場所で、多くの人と縁あって出会い、時間や空間を共有することで、多くの大切なものに気づき、学んできたはず。今後の人生に必ず生きてくるものと信じています。

学校生活も残り僅かになりつつありますが、進路実現に向けて奮闘中、これからが本番の仲間がいます。チーム3年生として、最後まで気を抜かず。「自律・自主・自立」を忘れず。高校生活のゴールは卒業式。人生にゴールなし。未来の光に向かって。



## 生徒の活躍(県大会以上出場)

### バドミントン部

第33回静岡県高等学校バドミントン選手権大会  
1年 櫻井咲希



### 陸上競技部

第54回静岡県高等学校新人陸上競技対校選手権大会  
2年タイ龍二(円盤投)  
2年今田朋季(やり投)  
1年山内海里(砲丸投)



### 弦楽部

第45回全国高等学校総合文化祭わかやま大会  
わかやま大会  
文化連盟賞



### 美術部

第69回静岡県高等学校美術・工芸展  
文化連盟賞  
優良賞  
特選  
特選

高橋美咲  
長山優輝  
佐原杏樹  
松永亜加里



### 合唱部

第25回高校生コーラス・フェスタ2021  
教育長賞(第1位)

来年度開催される  
第46回全国高等学校総合文化祭東京大会の  
静岡県代表に選ばれました!



### 吹奏楽部

第62回静岡県吹奏楽コンクール高等学校小編成の部金賞  
第27回日本管楽合奏コンテスト高等学校A部門全国大会優秀賞

12月21日(火)18:00~アクトシティ浜松中ホールで第29回定期演奏会を開催します。是非御来場ください!また、Web配信でもお楽しみいただけます→(静岡県新型コロナウイルス警戒レベル5以上の場合、Web配信のみで実施)



## 体育大会結果

優勝クラス 33HR

各種目第1位

男子100m 35HR 上田 快  
女子100m 36HR 深谷優衣  
男子1500m 24HR 鈴木一織  
女子1000m 23HR 森陽奈子  
長縄 56回 34HR  
男子HR対抗リレー 24HR  
女子HR対抗リレー 33HR  
男女混合リレー 36HR

